

議 事 録

開催場所	大津市今堅田二丁目4-1 大津市立北老人福祉センター
開催日時	平成29年3月8日(木) 13時30分～15時10分
出席者	利用者の家族代表 薄永 季子 民生委員 浅田 平
	地域包括センター職員 小笠原加代子 介護支援専門員 福本 有
	センター利用者 鈴木 啓介 事務局(所長) 辻 辰巳(生活相談員) 山田 ゆき子
資料等	別添のとおり
内 容	<p>1. 開会</p> <p>配布資料の確認</p> <p>2. 所長あいさつ</p> <p>第1回目を7月に開催し7ヶ月が経過。この間、利用者の方々の自立支援にも軸足を移しながら地域の方々とのふれあい、地域の一員として生きがいを感じていただけるよう取組んで来た。みなさまの綺譚のないご意見、ご指導をお願いしたい。</p> <p>3. 平成28年度事業の方針(再掲)</p> <p>1) 特色のあるデイサービスとして①利用者自らが出来ることは尊重し、出来たことへの喜びと自信を感じていただけるデイサービス(自立支援)②老福センターに併設されたデイサービスの利点を生かし、自分にあった趣味を楽しんだり、買い物、外食ツアー、お出かけ図書館など生きがいを感じていただけるデイサービス(個別活動の充実、レクの選択制)③老福主催の講座、多彩な催しに参加、充実した日々を送っていただけるデイサービス(地域と密着した集団レクの展開)④理学療法士の巡回指導による運動機能の維持向上に取り組むデイサービス(リハビリ指導)へ。</p> <p>2) 地域とふれあい地域で暮らす喜びが感じられるデイサービスの実現に向け①積極的に地域イベントに参加(地域密着型デイ)②利用者、園児とのふれあいそして地域ボランティアとの連携による充実したデイサービス(地域密着型デイ)を基本方針に取り組んでまいります。</p>

4. 平成28年度事業の実施状況(H28. 8～H29. 2)

一人ひとりの心に寄り添いながら自立支援に向け取り組んできた。また当センターが老福センターと併設されていることから、シニア教養講座、文化祭、年末お楽しみ感謝祭など多彩なイベントに参加し交流することで、地域で暮らす喜びが感じられるよう地域密着型デイサービスの実現に向け取り組んできました。

1) 利用状況(資料にもとづき説明)

2月は風邪、体調不良等で休まれる方が多く平均利用者10.6人(88.3%)7ヶ月平均11.1人
平均年齢(最高102歳、最低68歳)84.7歳、平均介護度1.32

2) 事故、ヒアリハット(にやりほっと)

ヒアリハット、にやりほっとの状況を説明し対応策を説明

3) 職員の資質向上のための取り組み

事業団主催の職員研修および県主催の研修等参加状況を説明

4) デイサービス利用者の健康管理にかかる取り組み

① 熱中症予防の取り組み

熱中症に注意を促した結果、発生は見られなかった。

② 感染症予防の取り組み

ノロウイルス、インフルエンザ、特に感染症は見られませんでした。

5) 取り組み状況

パワーポイントにて取り組み状況を説明。

5. 意見交換

山田:こちらからの説明は以上です。意見交換ですが、前回の課題として次回は何かテーマをもって
と言うことでしたので今回は「自立支援」をテーマに話し合いたいと思います。

デイ利用者さんから事前に聞き取りしましたので報告します。

Aさん:家にひとりいてしゃべることがない。人と話すのを楽しみに利用している。デイの方もそう
だが、一般利用者の方々とふれあいも楽しみ。好きなように過ごしているので満足です。

Bさん: 地方より転居してきて知り合いも友達もなくて淋しい思いをしていたが、デイを利用し
友達もでき、同世代の人と話ができて良かった。職員さんが運動、ゲーム、頭の体操などいろ
いろと考えてくれてとても楽しいです。職員の異動があるので淋しさを感じる。デイへの要望と

しては大原の足湯、彦根城の花見など行って見たい。運動器具があればやってみたい。

リハビリの先生のお話も上手だし体操も教えてください。家でも教えてもらった体操をしている。

Cさん: 選べるレクでは、男性は囲碁サークルへ行くなど達成している。自立支援に向けては、本人の思いを大切に。ケアマネさんが本人の意思を尊重しないで家族だけの希望によってデイ利用のケースもある。本人が希望してなかったらケアマネが納得いくように話すべきである。

本人はどのように生活したいか、何ができて何ができないかを先に聞くことが大切。

出来る事を増やすことで生きがいをもってもらえる。

「デイで今日一日何をしますか？」今まで与えていただけなのでこれを利用者さんに理解していただけるには時間がかかる。浸透させるには何回も繰り返すことと選択肢を増やしてあげること。またレクで好きな漢字を書いてもらったが書きっぱなしでなくなぜその漢字を選んだのか？自分の意見を発表⇒脳の活性化⇒自信がつく⇒自立支援につながる。

外出レクですが利用者さんを外にだすことは良いことだと思っている。

利用者同士が相手を見守り合う、お互い持ちつもたれつ、出来るひとができない人の手助けする。

プラス介護とは出来ることを増やしていくこと。マイナス介護とは出来ることを取り上げることである。

今後、デイの方針変更するなら数週間前から言ってもらえるとありがたい。(心の準備が必要)

山田: 利用者さんからの意見は以上です。みなさんから自立支援についてどのように思われているのかご意見をいただきたいと思います。

小笠原: 担当者会議に出ているとデイ利用者の方は自分の役割をもっている方が多い。他の利用者さん職員さんに頼りにされている。デイは非日常的なところで優しさを求めておられる。ヘアードライヤーもたまにはしてあげたら

福本さん: 利用者さんがどのような思いでデイを利用しているのか。デイに遊びに行く楽しみ。北老の良ところは一般の方との交流があるところ。日常のすべてがリハビリ。

浅田さん: デイは非日常とは思わない。利用者の立場からいうと日常そのもの。生活リズムの一つで自立支援は一人ひとり違うし一概にこうだと言えない。自分で出来ることをするのは当たり前だが家では利用者さんとしては「したい」が「できない」それを上手く伝えられない。家族さんがどれだけデイを理解しているか。家族さんはデイ利用者さんと関わりをもて欲しい。

目に見えた自立支援は簡単だが心の自立支援が大切。デイを利用して「今日は楽しかった」と言ってもらえるような心の中の自立支援をすることだと思う。

薄永さん:家では、もりあがる会話がないが何かしてもらおうと「ありがとう」の言葉がある。余り言われると気を使っているのかなと思う。本人の体調が悪い時、手伝うと「もういい自分でする」と言いながらしんどそう。どちらが自立支援かわからない。

浅田さん:年を取ると息子・嫁に感謝の気持ちを表し、心が通い合う心の交流が大切。

薄永さん:信頼はしてもらっているがたまに「うっとうしい」感じることはあるが開き直って負担に思はないことにした。感謝の気持ちを言ってもらえると嬉しい。

鈴木さん:ボランティアに来ているが自分がボランティアをしてもらっているようだ。独居老人なので家にいると話すことがない。週に2~3回ここに来ている。家にひとりしていると人恋しくなりデイで交流でき心から楽しい。デイで自分自身楽しませてもらっている。

小笠原さん: どういうきっかけでボランティアをされたんですか

鈴木さん:妻が8年間ここでお世話になっていた。年齢は81歳だが体を動かすのが好き。

人のお世話をしていると元気になっていく。

小笠原さん:これからの総合事業の最先端のような方ですね。

山田:北老では、午前中入浴なのでその間、ぬり絵が多かったが今は選べるレクと言うことでデイ入り口に頭の体操、囲碁、将棋など何種類か置いている。今までよりやり方を変えて行かないと思っています。

山田:たくさんのご意見ありがとうございました。

辻:ありがとうございました。予定時刻を大きくオーバーしてしまいました。

平成29年度も引き続きよろしく願いいたします。平成29年度はもう少し方向性が決まれば良いと思っています。本日はありがとうございました

以上